

FACULTY of MEDICINE SHIMANE UNIVERSITY



島根大学医学部案内 2027 医学科／看護学科

今、ここで学ぶ。
未来を拓く医療人へ。



ひらけ 医の扉。 燃やせ 医の炎。



Shimane University
Faculty of Medicine

島根大学医学部は、国際的視野に立った豊かな教養と高い倫理観を備え、

科学的な探究心と総合的な判断能力を培った地域の医療と

人類の福祉に貢献する医療人を育成することを目的としています。

そのために医学科、看護学科では

「人を見つめ」「地域と世界を見つめ」「未来につなげる」ことを3つの理念とし、

社会に開かれ、時代に応じたより良い教育・研究・診療を提供しています。

ここでの学びは、医療を必要とする人と真摯に向き合い、

地域と世界の課題を知って常に挑戦し、

未来を拓く医療人へとつながります。チャレンジできる環境は整っています。

さあ、ここで“医の炎”を燃やし、地域から世界へ発信できる医療人になるための

“医の扉”を拓きませんか。





CONTENTS

学部長からのメッセージ	02
医療の原点と未来の最前線。	03
ROOTS&INNOVATON	05
医学科案内	07
看護学科案内	11
大学院案内	15
医学部附属病院案内	16
学生生活	17
キャンパスガイド	19
学生生活支援	20
入試情報	21
各種データブック	22

君の「医の炎」を、島根から世界へ

皆さんの心の中に、「誰かの役に立ちたい」「目の前の人を救いたい」という想いはありますか。その小さな想いこそが、医療の原点であり、未来を変える力になります。島根大学医学部は、その「医の炎」を、本物の力へと育てる場所です。

島根県には、離島や中山間地域など、日本の医療が抱える課題が凝縮されています。だからこそ、ここでの学びは特別です。教科書では学べない現実に向き合い、「どうすればこの人を救えるのか」と自ら考え続ける経験が、やがて世界のどこでも通用する「真の解決力」へとつながっていきます。

医学科では、6年間を通じた英語教育と、72週間に及ぶ臨床実習を通して、世界に発信できる力と、患者さんに寄り添う力を同時に育てます。看護学科では、生命の尊厳に向き合いながら、一人ひとりの人生に寄り添う「全人的なケア」を学びます。

ここでの学びは、単に知識や技術を身につけることではありません。仲間と悩み、支え合い、時に壁にぶつかりながら、「医療人としてどう生きるか」を問い続けることで、医療とは、「正解を選ぶこと」ではなく、葛藤の中で、誰かのために最も誠実な選択をし続けることだということに気づくはずです。

島根には、あなたの挑戦を支える環境と、共に成長できる仲間がいます。家族や地域への感謝を胸に、まだ見ぬ「医の扉」を開いてください。島根から日本へ、そして世界へ。あなたのその一歩が、誰かの未来を変えます。

医学部長

竹谷 健

医療の原点と 未来の最前線。

島根大学医学部が育むのは、今、そして未来の地域医療を支える人材。「地域医療人の養成」を軸に、多様な学びを通して、患者に寄り添い、緊急時にも即応できる力を養います。地域課題への深い理解を胸に、世界へ挑戦し、未来の医療を切り拓く医療人がここから育ちます。

01 医療現場へ出る前に高める コミュニケーション能力。



医療者としてのコミュニケーション力を 高めるグループワーク

医師、看護師に限らずすべての医療者は、患者さんやご家族ご親族、地域住民の方々などとコミュニケーションをする機会が多いものです。特に地域医療の現場、患者さんに近いところで医療を提供するには、コミュニケーションは欠かせません。コミュニケーションの究極形とは心を通わせることですが、本当の意味で「心が通う」ことは、脳を直結でもしない限りあり得ません。それでも「心が通っている」と相手に思ってもらうためには、絶え間ない観察と実験……すなわち、科学の手法こそが最も適しているのです。「行動科学」「医療倫理・プロフェッショナリズム」など多くのコースでは、複数の他人とコミュニケーションするための「スキル」をグループワークの中で学びます。医学科・看護学科合同の授業ではなるべく学科を超えたグループを形成し、異なる立場の人の意見を聴く、自分の意見を伝えるための練習を行います。現状でコミュニケーションに自信がなくても、技法を学び練習、努力することで医療者として働くためのスキルを身に付けることが出来ます。島根大学では、善き医療者になるために入学してから努力が続けられる環境を提供します。



医学科の可能性を広げる教育

充実した設備・環境

実践に役立つ医療手法を学べるクリニカルスキルアップセンターではシミュレーション教育を専門に行います。情報教育施設としては情報科学演習室、eステーションがあり、eステーションはICTを活用した英語教育に特化した教育施設として利用されています。



医学科の地域と世界に貢献できる グローバルな医療人の育成

英語コミュニケーション力と国際的視野を備えた世界で活躍する医療人を育成するため、医学英語教育を6年一貫で強化しています。eラーニングを積極的に活用した英語の授業のほか、学生のニーズやレベルに合わせて自由に選択できる「アドバンスト・イングリッシュスキルコース」の開設、海外研修、留学の支援など学生の英語学習を多方面からサポートします。

看護学科の豊かな人間性を育む学び

03

「一人で覚える」から
「みんなで考える」へ。



医学生と看護学生がともに学ぶ 倫理とチーム医療

本学では、倫理教育や臨地実習前のTeam STEPPS(チーム医療のためのコミュニケーション教育)などを通して、医学生と看護学生がともに学び、医療に必要な倫理観とチーム医療の基礎を身につけます。

それぞれの立場の違いや役割を理解しながら、「患者さんにとって何が最善か」を考える力を育てます。

また、早期から医療現場に触れる実習を取り入れ、学んだ内容を実際の場面と結びつけながら理解を深めていきます。こうした経験を通して、職種の違いを超えて協力し合い、「患者中心の医療」を実践できる力を養います。

本学では、グループワークを中心としたPBL(課題解決型学習)やTBL(チーム基盤型学習)を取り入れ、仲間とともに学びながら看護の力を身につけていきます。

少人数での話し合いや事例をもとに、「なぜそうするのか」を考え、自分の意見を伝える力を育てます。

学友と意見を交換しながら学ぶことで理解が深まり、看護師に必要なコミュニケーション力や協働する力も自然と身につきます。さらに、シミュレーション学習と組み合わせることで、実際の看護の場面をイメージしながら学ぶことができます。

こうした学びを通して、自分で考え、行動できる看護師を目指します。



ROOTS

この地が育んだ感性と、地域医療への恩返し。

島根の豊かな自然と人の温かさが、私たちの原動力です。
超高齢社会という現場で患者に寄り添う学びは、地域への感謝そのものです。
地元で学び働く決意を胸に、次世代を育てる使命を果たします。

地域に根ざし、世界に開かれた医療人の育成

医学英語教育学講座 教授 岩田 淳（島根県立安来高校卒業）

私は現在、医学英語教育を通じて、地域に根ざしながら国際的な視野も備えた医療人材の育成に取り組んでいます。地域医療では、患者さん一人ひとりと真摯に向き合い、信頼関係を築く力が求められます。同時に、これからの医療現場では、さまざまな国籍、文化、宗教的背景を持つ患者さんへの対応もますます重要になります。必要なのは英語力だけではなく、相手の背景や価値観を理解しようとする姿勢と、安心感を与えるコミュニケーションスキルです。また、地方にあって世界との接点を意識することは大切です。地域に根を張りながら世界に目を向け、そこで得た学びを地域に還元していくことが、これからの医療人材には求められています。私自身、この地で育ててもらったことへの感謝を胸に、教育を通じて地域医療に恩返しをしていきたいと考えています。

この街で暮らす人々とともに。 次世代へつなぐ小児看護のカタチ。

臨床看護学講座 准教授 秋鹿 都子（島根県立松江東高校卒業）

島根県で育った私にとって、この地で働く意味は、地域の暮らしに根ざした看護を学生とともに考え、次の世代へつないでいくところにあります。担当する小児看護学では、子どもの成長発達を支える視点と、家族を含めて生活をみる力を大切にしています。島根県は、医療・保健・福祉・教育の距離が近く、顔の見える連携の中で、子どもの育ちを継続して支えることを学べる場です。私自身も小児アレルギーエデュケーターとして、アレルギーの子どもと家族への看護実践に携わっており、そこで得た学びを教育と研究に還元していきたいと考えています。



ローカルに根ざし、グローバルに学ぶ。 その経験が未来の医療を支える力。

リハビリテーション医学講座 教授 馬庭 壮吉（島根県立出雲高校卒業）

医療の現場もかなりハードですので、強くしてしなやかな身体と心が求められます。私は高校では柔道部に所属したおかげで、体重が10キロ増えて丈夫になりました。また部活動は協調性、社会性や接遇などを学ぶ上で大切です。先輩、教師、地域の方々の話を傾聴することや幅広い読書は、将来患者さんの気持ちを汲み取るために役立ちます。勉強も大切ですが、充実した高校生活を送ってください。島根大学は地方にありますが、国内外で勉強し活躍できる機会がたくさんあります。皆さんと一緒に島根の医療を支えて参りましょう。



INNOVATION

ローカルな課題から、グローバルなスタンダードを。

島根から発信される研究は、世界の医療を塗り替える可能性を秘めています。

既存の枠組みを超えようとする革新の息吹が満ちています。

この地で挑む課題解決は、世界の医療の未来を照らす道筋となるのです。

地域が育んだ貴重なデータと技術で、 日本をリードする。

内科学講座（内科学第二）教授 **石原 俊治**（島根県立出雲高校卒業）

消化器内科は、食道・胃・腸などの消化管に加え、肝臓・胆のう・膵臓などを対象とし、炎症やがんなど幅広い病気を診療する分野です。私は特に、難病である炎症性腸疾患の診療に取り組み、腸の免疫やバリア機能に着目して同疾患の病態解明を進め、その成果を全身の他疾患の理解へ広げることを目指しています。病気の活動性や重症度を評価する指標（バイオマーカー）の開発にも力を注いでいます。大学病院の強みを生かし、先進的な治療を実践しながら、よりよい医療の実現と次世代医療の発展、さらには地域医療への貢献に努めています。



「見えなくなる」を食い止める 最先端の眼科医療

眼科学講座 教授 **谷戸 正樹**（島根県立三刀屋高校卒業）

失明につながる目の病気の多くは年齢とともに発症・進行します。眼科学講座では、包括的な指標を採用して、老化と眼疾患の関連について検討をしています。老年医学的手法による認知機能やフレイルの評価、あるいは、野菜摂取やAGESを評価するための指尖皮膚センサの導入などです。年間4000件近くの手術を行っており、特に緑内障手術は国内トップクラスの件数と内容です。島根で開発されたマイクロフックトラベクトミーやグリーンレーザーECPといった手術は全国に広がっており、国内外から多くの留学や見学を受け入れています。

先進的な治療と研究を。脳神経内科の専門性を 生かし、地域と次世代の医療を支える。

内科学講座（内科学第三）教授 **長井 篤**（島根県立益田高校卒業）

21世紀は脳・神経科学の時代。飛躍的に発展しているこの領域で、いよいよ認知症が治療できる時代に入ってきました。30年前から地道に続けてきた脳ドックが地域住民に育まれ、貴重なデータが蓄積されています。脳神経内科ではオール島根大学の力を結集し、地元企業と共同研究を行い、最先端のAI技術や様々な分析手法を用いて、脳卒中や認知症リスクを予測するシステムを開発し、この分野では日本をリードしています。何百万人もいと言われる認知症の方の治療、さらに一歩先を行く認知症前状態の予測、そして認知症発症予防に向けて皆さんと共に取り組みを続けていきます。

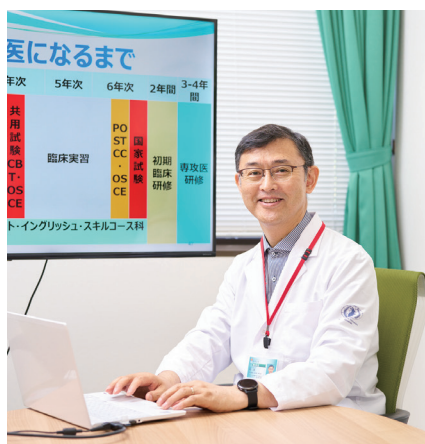




医学科

定員102名

学士入学(2年次・3年次編入学)定員10名



学科長からのメッセージ

島根大学医学部の目的には、「国際的視野に立った豊かな教養と高い倫理観」「科学的探求心に富む人材」、「地域社会の発展に寄与」、「人類の福祉に貢献し得る高度専門職業人」等のキーワードが含まれています。

体のしくみを学ぶ基礎医学と、病気の知識と体の対応を知り治療につなげる臨床医学を学ぶことはもちろん、早い段階から医療現場に触れ、医療が社会の中でどのような役割を果たしているのかを体感できる教育を大切にしています。医学の道は平坦ではありませんが、目の前の患者さんのことを第一に考えて努力を惜しまない姿勢を貫けば、道は必ず開けます。

島根大学医学部は経験を積み重ねながら成長し続ける皆さんを、6年間をしっかりとサポートします。

皆さんのご入学を心よりお待ちしております。

医学科長 楫 靖

求める学生像

医学科では以下のような能力を身につけてきた学生を求めています。

思考力・判断力・表現力

- 人のために尽くそうとする明確な意志を有している。
- 地域医療を担う意欲と使命感を有している。
- 生命及び人に対する尊厳と倫理観及び理論的な思考力を備えている。
- 探究心が豊かで、未知の分野に挑戦しようとする情熱を有している。
- 異文化や自分と異なる考えを受け入れ広い視野で物事を判断し思考できる。
- 自分の意見や考えをわかりやすく言葉や文章で表現できる能力を有している。

知識・技能

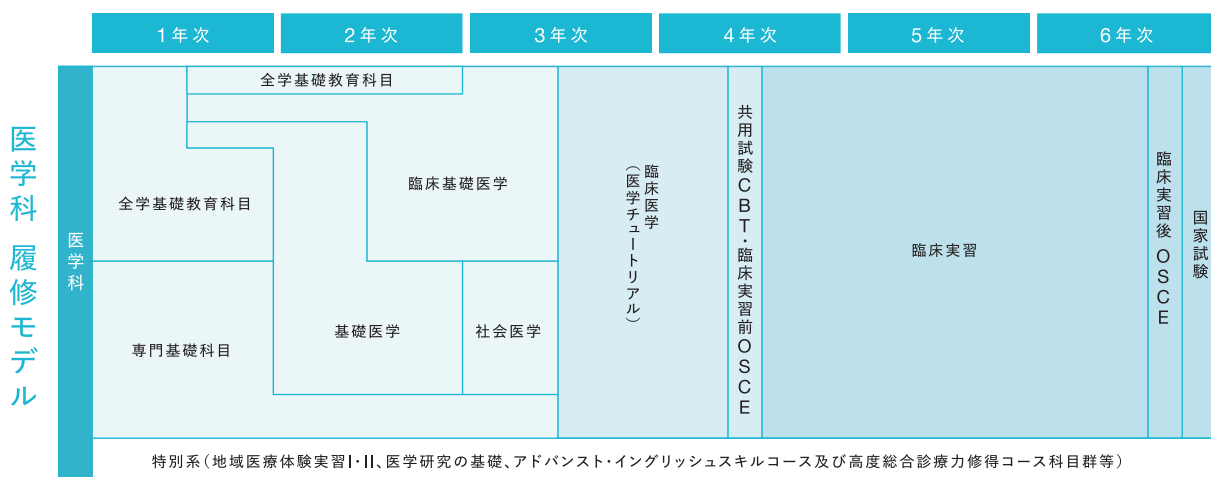
高等学校で履修する英語・数学・理科・社会・国語・情報において、入学後の医学部の修学に支障がないレベルの知識を有している。

主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- コミュニケーション能力に長けている。
- 相手の気持ちを理解するとともに支持し周囲の人々と協調性を持って行動できる。

教育課程の概要

6年間の一環教育を実施しており、その教育課程は、〔全学基礎教育科目〕及び〔専門教育科目〕で構成されます。〔専門教育科目〕は、専門基礎科目、基礎医学系、臨床基礎医学系、社会医学系、臨床医学系および特別系に分類されます。なお、1年次から6年次まで、6年間一貫した医学英語教育を実施しています。



1-2年次

1年次には、「医療倫理・プロフェッショナリズム」、「行動科学」を含む全学基礎教育科目を履修し、豊かな教養を養うとともに、生命の尊厳や倫理観についての認識を深めます。2年次には、基礎医学系、臨床基礎医学系など専門教育科目を履修し、臨床医学を修得し応用するための基本的な医学知識を修得します。



1年 医療倫理・プロフェッショナリズム

3-4年次

3年次から4年次にかけては、「医学チュートリアルコース」を履修します。垂直・水平的統合の一環として、臓器別・系統別に17コースが設けられ、コースに関連する基礎医学、臨床基礎医学、社会医学を組み込んで、臨床医学への導入を学びます。4年次には、共用試験CBT及び医学系臨床実習前OSCEを実施します。



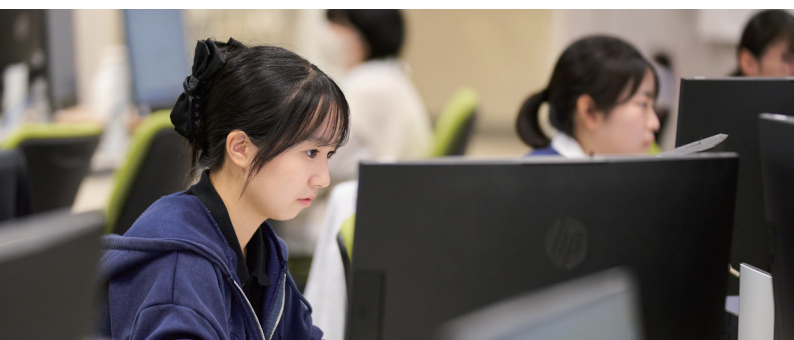
4年 OSCEのための授業

4-6年次

4年次末から6年次にかけて、診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップ)を72週間にわたり実施します。学生は指導医のもとで、医療チームの一員として責任と主体性を持って実際の診療に参加します。これにより、実践的な臨床能力及びコミュニケーション能力を身につけ、また、多職種連携、チーム医療や医療倫理・医療安全、患者医師関係など幅広く臨床医学の基本や態度を学びます。6年次には、医学系臨床実習後OSCEを実施します。



5年 臨床実習



臨床実習・地域医療実習

高度先進医療から地域でのプライマリ・ケアまでを学ぶことで、将来の医学・医療を担う医師として必要な幅広い臨床能力と高い倫理観を修得します。入学後の早期に医療現場を体験する早期体験実習、1年次から全学年を通して参加できる県内各保健所及び地域医療機関で行う春季・夏季地域医療体験実習並びにフレキシブル体験実習、3・4年次の環境保健医学実習、4年次後半から6年次後半にかけて行う臨床実習、地域医療実習など、地域を基盤とした臨床教育の充実を図っています。

現在、日本のみならず先進国諸国では未曾有の高齢化が進行しており、それに伴って患者さんの多疾患併存(マルチモビディティ:multimorbidity)や心理・社会的問題(孤独や孤立などを含む)などの問題が増えています。また医療を取り囲む環境も、特に日本において人口減少に伴う税収の減少、それによる医療費の削減など、問題点が山積しています。これらの「正解のない課題」を解決する能力はこれからの医療人にとって、都会でもどこでも必須になるといえるでしょう。このような能力を涵養するためには、できるだけ若いうちに問題に触れ、考える習慣を身につけておきたいものです。そのために高齢化の最先端である島根県で地域医療の実態をその目で見て自分で考える、課題を認識・解決方法を考える機会は貴重なもので、通常の講義や実習ではなかなか得られません。本学が全国に先駆けて始めた「総合診療・地域医療実習」では、地域で奮闘する総合診療医の先生方や他職種の皆さんに直接話を聴いたり、その診療をその目で見たり、自分で患者さんとお話ししたり手技を経験したりすることができます。全ての学生さんにこれだけの長期間地域を学んでいただく機会は島根大学だけのものであり、島根大学カリキュラムの中でも大きな価値のあるものになっています。実習を終えてのプレゼンテーションで特に優秀なものを一般公開しております。こちらのQRコードより是非ご覧ください。島根大学は「良いお医者さんになりたい」志のある皆さんを全力でサポートいたします。共に頑張ってください。



地域医療教育学講座 教授

長尾 大志

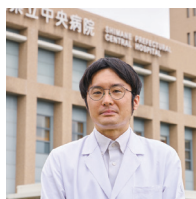


地域医療実習の狙いと参加学生の声



島根大学医学部
附属病院
総合診療医センター
医師 原田 愛子

地域医療実習には総合診療医センターの医師も参画し、医学生との振り返りを通じて個別の成長を支援しています。また、地域医療の現場で活躍する医師から多様な知見を学ぶ機会は、大学病院における実習とは異なる視点を獲得するうえで、医学生にとって非常に有益な経験となっています。ぜひ、地域医療実習で多くの刺激や学びを吸収してください。



医学科5年
高橋 昭良

総合診療科での実習を通じ、総合診療とは地域で必要とされる役割を担い、患者さんを適切な医療につなげることだと学びました。身体所見から病態を幅広く整理する視点だけでなく、医学的な介入が患者さんの予後や生活、価値観に本当に合っているかを考える重要性も実感しました。実習で得た「見逃さない力」や「必要な医療につなげる力」を地域の中で活かし、将来の医療現場へ還元できるよう深く学んでいきたいです。



01 在学生メッセージ

門脇 貫太

医学科 2 年
(出身／島根県・松江南高校卒)

医学への歩み、世界へ広がる視野

1 年の基礎科目に加え、2 年次から始まった医学専門科目に身が引き締まる思いです。特に解剖学では、「なぜこのように人体が動けるのか」「どのような疾患や治療につながるのか」を考えながら学ぶことで、知識が単なる暗記ではなく実際の医療と結びついていることを実感しています。友人と教え合いながら理解を深められる環境も大きな魅力です。また、島根大学は医学英語の学習が大変充実しています。この春にニュージーランドでの海外研修に参加し、他国の医療を肌で感じました。英語での医療に関する対話や異文化での学習は大きな挑戦でしたが、視野を広げる貴重な経験となりました。この学びを日本の医療に活かす道を探りつつ、将来は専門知識と確かな技術に加え、患者さん一人ひとりに合わせた柔軟な対応ができる医師を目指しています。



02 卒業生メッセージ

岩崎 華奈

島根大学医学部附属病院 初期臨床研修医
(島根県出身／2024 年度 医学部医学科卒)

恵まれた環境で育む医師としての第一歩

初期臨床研修医として、卒後臨床研修センターで研修に励んでいます。1 ヶ月ごとに異なる診療科を経験しながら、それぞれの病院が持つニーズを意識しつつ、患者さんの生活を少しでも幸福にするために自分に何ができるかを考え続けています。島根大学での学びは、医学にとどまらず幅広いものでした。医学英語や研究室配属を通じて、医療現場で生まれる疑問を定式化し探究する力を実践的に養うことができました。また、「プロフェッショナリズム」を学んだことは、患者さんを社会的なつながりも含めてサポートする大切さへの気づきとなり、全人的医療を実践するための土台になっています。将来は、患者さんやご家族、地域の方々が抱く健康への不安を少しでも和らげる仕事に携わっていきたいと考えています。



看護学科

定員60名



学科長からのメッセージ

島根大学医学部看護学科は、「生命の尊厳と人間愛」を基調とし、豊かな知性、科学的判断力、高度な看護知識・技術を兼ね備えた人材の育成を理念としています。人々が備えている自然治癒力を引き出し、健康の回復や維持を促す看護師資格を基盤に、学士課程では選択制で保健師や養護教諭、大学院へ進学した修士課程で助産師になる資格を得ることができる学科です。医療機関や行政、地域および学校等において、科学的根拠に基づく理論的で高度な看護学を展開し、人々の健康の回復・維持・増進と、看護水準の向上を教導しうる看護職の育成を目指しています。皆様が本学科を学びの場として選んで下さり、学業等の目標を達成してゆく輝かしい成長の日々を共に過ごす機会に恵まれることを教員一同心より願っています。

看護学科長 山本 昌弘

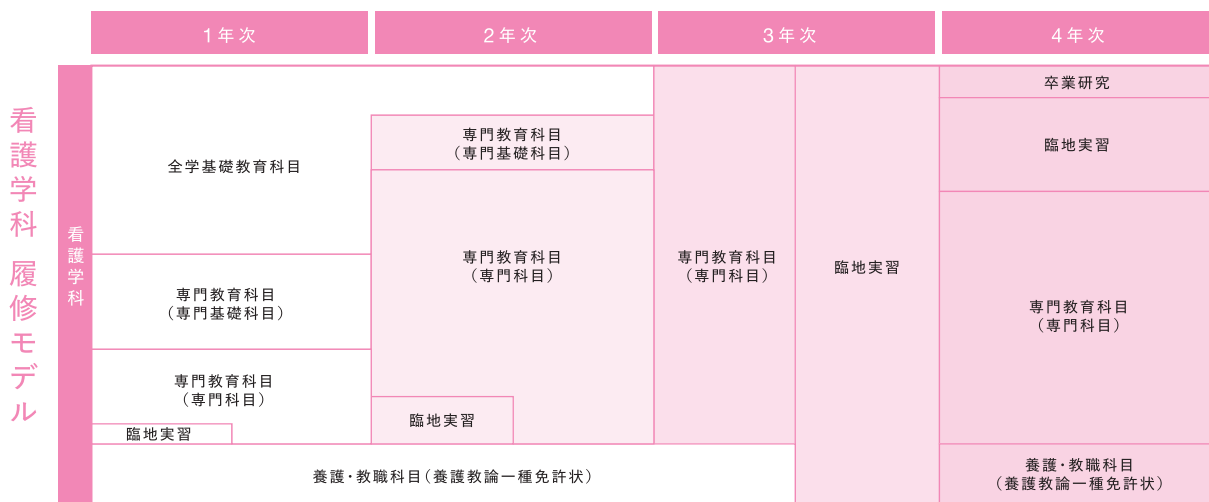
求める学生像

看護学科では将来、地域社会の人々の命と生活を支える
自律した看護専門職を希望する次のような学生を求めています。

- ① 大学で学ぶ上で必要な基礎的学力と主体的学習態度を身につけている人
- ② 他者に関心を持ち、人間を尊重し、ささえ合い、ともに歩むことのできる人間性豊かな人
- ③ 知的探究心にあふれ、主体的かつ論理的に問題解決を図ろうとする人
- ④ 志を高く持ち、夢の実現に向けて弛まぬ努力のできる人
- ⑤ 保健・医療に関心があり、将来看護に貢献したいと考えている人

教育課程の概要

地域において継続的かつ包括的な保健医療サービスを提供できる能力を有し、看護師・保健師の免許を併せ持つ“看護職”を育成するために、看護師教育課程と保健師教育課程（選択制）を統合した4年間の教育課程を編成・実施しています。また、医療と連携できる養護教諭を育成するために、養護及び教職に関する科目を配置しています。



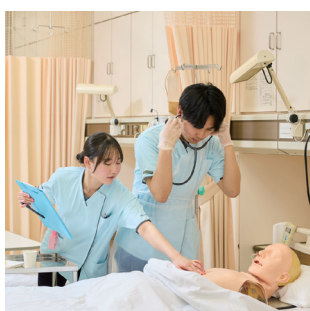
1年次では主として全学基礎教育を履修します。全学基礎教育は「島大STEAM 科目群」「ユニバーサル科目群」「地域創生科目群」「教養育成科目群」から構成されます。また、それぞれの科目群に対応する教育目標として「現代社会の求める新たなリテラシーを身に付ける」「国際社会で必要とされる基礎的知識・技能と地球規模の視野を身に付ける」「山陰地方の地域の問題解決に資する能力・資質を身に付ける」「豊かな人生の基盤となる幅広い教養を自己の興味・関心に応じて身に付ける」の4つを掲げており、現代社会が求める基礎的な知識・能力の成長を促します。また、国際的視点の涵養のために、海外研修を自由科目として設定しています。1年次の前期に初年次教育プログラム「看護学入門セミナー」を設けています。専門教育科目を履修する準備として、レポートの書き方や文献検索方法など、学ぶ技術に関する力を身につける他、専門教育への橋渡しになるような基礎的知識・態度を養います。

1年次から2年次にかけて、看護を学ぶために必要な基礎知識である「形態と機能」や「疾病論」などの専門基礎科目を履修します。専門科目では、看護学の基盤となる「看護学原論」などの講義科目、看護を提供するための援助技術を学ぶ「療養生活援助技術演習」や「看護実践基盤技術演習」などの演習科目、さらに「基礎看護学実習」によって、看護の基本を身につけます。2年次から多様な健康問題への対応を学ぶため、「成人看護学」「母性看護学」「小児看護学」「精神看護学」「老年看護学」「在宅看護学」「地域看護学」の幅広い看護の専門領域の概論・援助論を履修します。

3年次後期からはこれまでの学習をふまえて、病院はもとより、保育所、助産院、クリニック、訪問看護ステーション、介護老人保健施設等において、各領域の実習を行います。4年次では、看護専門職としての研究マインドの育成のため、1年をかけて「卒業研究」に取り組みます。また、保健師課程選択者は、地域で暮らす人々の健康問題への対応を学ぶため、島根県全域の保健所、市町村、事業所において「公衆衛生看護学実習」を展開します。



1～2年 看護実践基盤技術演習



3年 診療時援助技術演習



3年 各領域での実習

臨地実習

臨地実習は、講義・演習で得た知識や技術を科学的思考のもとに実践、統合する授業であり、看護実践能力の基本を身につけるための重要な科目です。臨地実習では、ケアの対象のニーズを適切にとらえ、そのニーズに沿った看護実践を展開することを通して、看護専門職としての基礎的能力を習得します。そして、対象(個人および家族、集団や地域)との援助的関係を通して、対象者に学び、自己の人間観や看護観を構築します。

島根大学医学部附属病院			その他の地域施設等		
実習名	学年	内容	実習名	学年	実習先
基礎看護学実習	2年次	看護の援助過程の基本を、実践を通して学ぶ。	早期地域看護学実習	1年次	コミュニティセンター
成人・老年・小児・母性・精神の各看護学実習	3年次	看護学の専門分野別に、健康の回復を支援する看護を実践的に学ぶ。	小児看護学実習	3年次	保育所
看護学総合実習 看護管理実習	4年次	これまでの看護学の学びを、実践を通して統合する。	母性看護学実習	3年次	クリニック・助産院
			精神看護学実習	3年次	クリニック・病院
			在宅看護学実習	3年次	訪問看護ステーション
			老年看護学実習Ⅱ	4年次	介護老人保健施設
			公衆衛生看護学実習	4年次	保健所・市町村・事業所
			養護教職課程実習	3・4年次	島大附属学校、 出雲市小中学校



母性看護学演習



看護学演習(グループワーク)



公衆衛生看護学実習



公衆衛生看護学実習(健康教育)

取得できる資格・免許

■看護師(全員)

- 保健師国家試験受験資格(3年次後期に選択: 40名程度)
令和4年度入学生より、保健師教育課程を選択制に変更しました。
- 養護教諭1種免許(2年次終了時に選抜: 10名程度)





01 在学生メッセージ

増原 竜樹

看護学科 2 年
(出身／島根県・出雲高校卒)

学びを深め、未来へ繋ぐ

療養生活援助技術演習を通じて、患者さんが安楽に過ごせるためのケアを学んでいます。2 年生になり専門科目が増えるなかで、「看護師に近づいている」という実感を持ちながら日々の授業に向き合っています。勉強・部活動・アルバイトと多忙な毎日ですが、先生方が分からないことを丁寧に教えてくださる環境と、共に高め合える同期の存在が大きな支えです。看護学科の仲間とは教え合い、助け合える関係で、島根大学を選んで本当によかったと感じています。生まれ育った出雲市の医療に将来貢献したいという思いを胸に、残りの学生生活では地域ボランティアにも参加し、現場で考える力と人としての幅を広げていきたいと考えています。患者さん一人ひとりの状態と気持ちに寄り添い、どんな場面でも臨機応変に対応できる看護師を目指しています。



02 卒業生メッセージ

影山 裕子

島根大学医学部附属病院 看護教育支援室 副看護師長
(島根県出身／2008年度 医学部看護学科卒)

培った看護の視点を、未来の担い手へ

現在は看護教育支援室で、新人研修などラダー別研修の企画・運営に携わっています。現場教育と集合教育の連動を図りながら、研修者の現状に即した内容を検討する日々です。アットホームな部署の雰囲気のなかで意見を出し合い、研修者の成長を間近に感じることに大きなやりがいを感じています。島根大学での学びのなかで特に根づいているのは、「患者さんを生活者として捉える」という視点です。授業や実習を通じて培ったこの視点は、看護師としての考えの根底にあり、今も研修者に伝え続けています。今後は臨床の現場でも経験を振り返りながら、チームで学び合える環境づくりに関わっていきたくと考えています。学生時代の学びが、こうして人を育てる仕事へとつながっていることを、日々実感しています。



大学院（医学系研究科）

理論と実践を融合し、人間性豊かな研究者・医療人を育成



島根大学大学院医学系研究科は、医学及び看護学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて、医学の分野においては、研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を備えた優れた研究者の養成を、看護学の分野においては、広い視野に立って精深な学識を授け、看護学における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力と、人間性を備えた優れた研究者又は高度専門職業人の養成を目的とし、併せて医学及び看護学の発展と人類の福祉の向上に寄与することを使命としています。

医科学専攻

博士課程

標準修業年限4年／入学定員30名

医科学専攻博士課程は、医学の専門領域及び関連領域で自立して独創的研究活動を行うに足る高度の研究能力、豊かな学識と人間性を備えた教育、研究の指導的役割を担う人材の育成を図るとともに、医療に求められる高度な専門知識・技術及び研究能力を備えた臨床医の育成を目的としています。

- ☐ 研究者育成コース
- ☐ 高度臨床医育成コース
- ☐ がん専門医療人育成コース
- ☐ 総合診療・地域医療コース

修士課程

標準修業年限2年／入学定員15名

医科学専攻修士課程は、医学部医学科以外出身の者に、総合的・学術的サイエンスとしての医科学の視点を付与し、島根大学及び地域における独自の研究・教育の実績を、教育・訓練を通じて学生に還元することを基本方針としています。

- ☐ 総合医科学コース
- ☐ がん専門薬剤師養成コース
- ☐ 地域医療支援コーディネータ養成コース
- ☐ 医療シミュレータ教育指導者養成コース

看護学専攻

博士後期課程

標準修業年限3年／入学定員2名

看護学専攻博士後期課程は、「超高齢看護学」を構築するための高水準で独創的な看護学研究を自立して実施し、看護の質向上に貢献することによって人々が豊かな人生を享受できる超高齢社会の実現に寄与することのできる教育研究者の養成を目的としています。

「超高齢看護学」の構築を目指して

超高齢社会における多様な健康課題を創造的に探求し、看護ケア方法や看護実践モデルの開発、看護理論の生成などを行う超高齢看護開発と、これらの成果を人々が享受するための実用化と制度化を見据えた仕組みづくりに資する安全ケアシステム開発とが相互に関連し、バランスよく発展することで、世界に類を見ないわが国の超高齢社会が直面している様々な健康課題の解決に貢献することを目的としています。

博士前期課程

標準修業年限2年／入学定員12名

看護学専攻博士前期課程は、豊かな人間性と幅広い視野を基盤として科学的な視点から看護学の学識を教授研究し、卓越した看護実践能力と創造的な研究能力を持つ人材の育成を目的としています。

- ☐ 看護援助学コース
- ☐ 看護管理学コース
- ☐ 地域・在宅看護学コース
- ☐ 母子看護学コース
- ☐ がん・成人看護学コース
- ☐ 高齢者看護学コース
- ☐ がん看護CNSコース
- ☐ 老人看護CNSコース
- ☐ 助産学コース



医学部附属病院



病院長あいさつ

島根大学病院は「地域医療と先進医療が調和する大学病院」を理念として、地域の中核病院に相応しい医療提供体制を構築しています。手術ロボットda Vinci Xi 2台の効率的運用を図るロボット支援手術推進センター、島根県全域を対象とした外傷・救急医療を司る高度外傷センターならびに血管総合診療センター、地域小児救命救急センターによる高難度小児疾患に対する医療提供体制の充実化、診療科横断的に整備した顔面・頭蓋底治療センターによる安全・安心な高度医療の提供、先進的な腎臓研究を展開する統合腎疾患制御研究・開発センター（IKRA）、新興感染症ワクチン・治療用抗体研究開発センターなど、大学病院の総合力として地域完結型の高度医療を提供しています。教育面では、病院医学教育センター、総合診療医センターや大田総合医育成センターで卒前・卒後教育の充実化を図り、地域社会に柔軟に対応できる優れた医療人の養成を行っています。

病院長 椎名 浩昭

病院の取り組み



手術支援ロボットda Vinci Xi (ロボット支援手術推進センター)

2022年10月からは手術支援ロボットda Vinci Xi 2台が稼働中で、肺がん、胃がん、直腸がん、子宮がん、前立腺がん、腎がん、膀胱がん等の悪性腫瘍のほか、縦隔腫瘍、子宮筋腫、腎盂尿管移行部狭窄等に対してもロボット手術を展開しています。



血管総合診療センター

動脈疾患・静脈疾患に対し、各専門科とコメディカルが連携して総合的に診療します。血管の治療にとどまらず、全身を診る集学的ケアを提供する当院の総合力を結集したものです。この分野の次世代の医療人材の育成にも力を注ぎ、地域医療に安全で質の高い医療をセンター一丸となって目指します。



地域小児救命救急センター

新たにオビニオンリーダーを配置した小児心臓血管外科や小児脳神経外科に加えて、移行期医療や児童精神など多様な小児救急症例に対応するため、地域小児救命救急センターを設置し、安全・安心な高度な小児医療を提供しています。



顔面・頭蓋底治療センター

耳鼻咽喉科・頭頸部外科、脳神経外科、眼科、形成外科や歯科口腔外科などによる診療科横断的な当センターでは安全・安心な高度医療の提供が可能です。特に島根県西部で著しいこれら診療科の偏在を是正するために魅力的な地域枠プログラムを整備して行きます。



統合腎疾患制御研究・開発センター (IKRA)

IKRAとは、腎臓の診療・研究に携わる内分泌代謝内科、総合診療科、泌尿器科、膠原病内科、臨床検査科、腎臓内科の6科体制の組織です。「腎臓の老化制御」を目的とした研究コアを発足し、先進的な腎臓研究を展開して行きます。



総合診療医センター

2021年度より島根県内の10の専門研修プログラムを準備した総合診療医育成施設を軸に島根県と連携し、オール島根で総合診療医を育成しています。専門研修プログラムが円滑に運用され、満足度の高い研修プログラムとなるよう、総合診療医センターが支援します。



宮尾 恭平

医学科 4 年

出身／岡山県 岡山大安寺中等教育学校卒

チームで勝つために、何が必要かを考える力

現在、48名が所属する硬式テニス部で部長を務めています。入部のきっかけは新歓での温かい雰囲気、テニス未経験ながらも先輩方の丁寧な指導と自主練に打ち込める環境に惹かれ、迷わず入部を決めました。部長として最も意識したのは、一人ひとりの声に耳を傾けること。部員数が多いとモチベーションに温度差が生まれやすいため、個々の思いを受けとめながらチーム全体の共通ゴールを見つけ出す工夫を続けました。「正論を押し通すだけでは全員は納得しない」と気づいてからは、状況を客観的に判断して決断する責任感も身についたと感じています。

Favorite Place

グループワークステーション

1年生のころから友人たちと集まり、勉強に使っています。お互いに教え合うことで理解が深まり、ホワイトボードを使ったアウトプットで効率よく学習できます。もう一つはテニスコート。空きコマや放課後に自主練に励む、大切な場所です。



My College Life

医学に向き合う情熱と、自分を磨き高める時間。

天野 希咲

医学科 6 年

出身／島根県 益田高校卒

音楽と仲間が、勉強の原動力になる

幼少期からピアノを続けてきた経験を活かしたいと、29名が所属するピアノ・エレクトーン部「COLORS」に入部しました。新歓コンサートやくえびご祭でのステージ発表、難病フォーラムでの演奏など、音楽を通じて人とつながる機会が豊富なことも魅力でした。部長も経験するなかで気づいたのは、忙しい学生生活における「隙間時間」の大切さ。確保できた時間の長さに合わせて練習内容を変えるなど、限られた時間を有効に使う工夫が自然と習慣になりました。音楽も勉強も、「やれる時にやれることを」という姿勢が、充実した毎日を支えています。



Favorite Place

図書館・e-clinic

ピアノを弾くと心がリフレッシュされ、その後に図書館やe-clinicで勉強するのが私のルーティンです。周囲が集中して学ぶ姿を見ると自然と「自分も頑張ろう」という気持ちになり、メリハリのある学習ができています。



CLUB CIRCLE

授業以外で貴重な体験を得る場として
課外活動があります。

出雲キャンパスには約 50 団体があり、
多くの学生が学内外で活動を行っています。

体育系

- サッカー部
 - 剣道部
 - 準硬式野球部
 - 硬式庭球部
 - バスケットボール部
 - 卓球部
 - 弓道部
 - 陸上競技部
 - 馬術部
 - 山岳部
 - バドミントン部
 - バレーボール部
 - 空手道部
 - 少林寺拳法部
 - ソフトテニス部
 - 水泳部
 - ラグビー部
 - フラグフットボール部
 - 合気道部
 - テニス同好会
 - ダンス部
 - SMFC(Shimane Medical Futsal)フットサルサークル
 - 医学部柔道部
 - ゴルフ部
- 以上、24団体

文化系

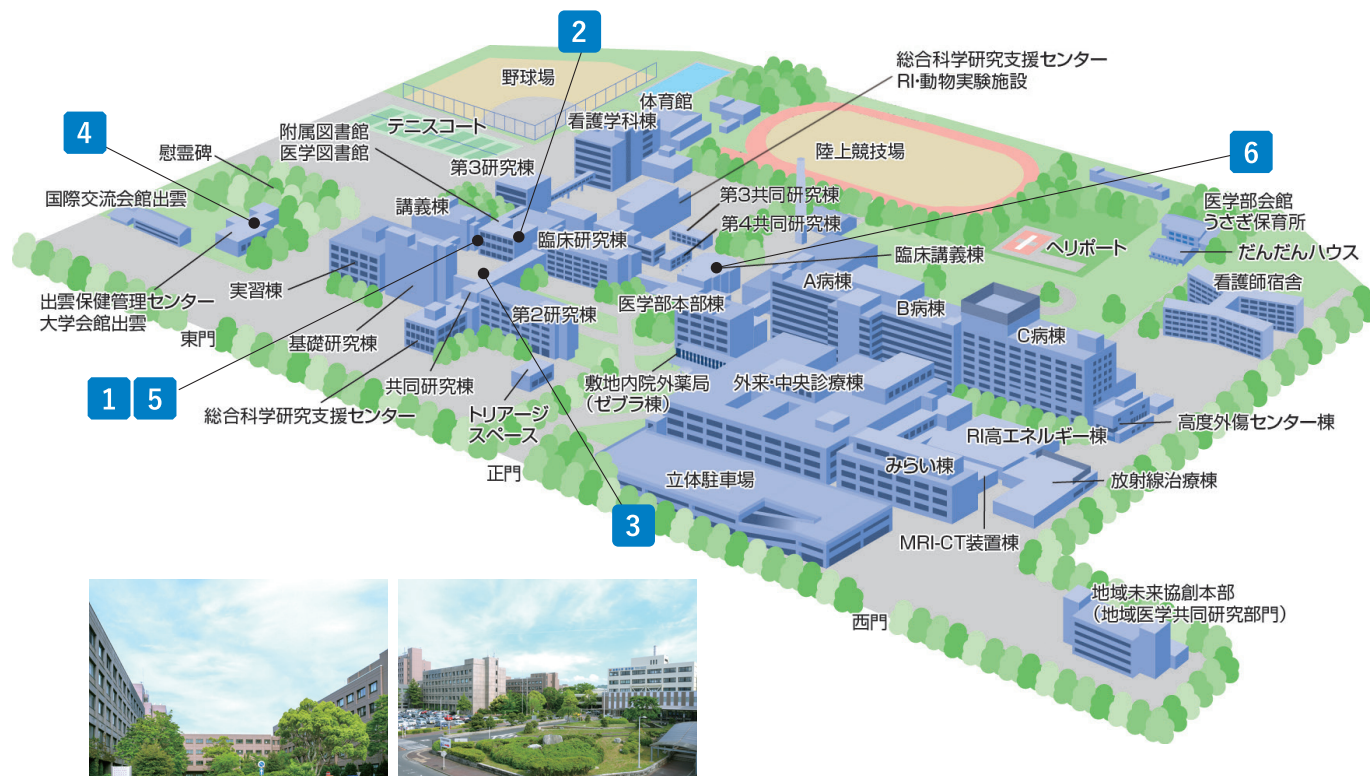
- 地域医療研究会
 - 芸術倶楽部
 - シュールカメラート管弦楽団
 - 茶道部
 - 軽音楽部
 - 写真部
 - キンダーフロイント
 - 合唱部
 - 陶芸部(桂医窯)
 - ガーデニングクラブ
 - 手話サークル
 - 農園クラブ
 - 国際交流サークル～IFMSA-Shimane～
 - SCOP(Skill Conquest and output program)
 - Jazz研究会
 - フローラ室内楽団
 - 島根大学ボードゲームサークル フェレータ
 - とりかへばや～映画、マンガ、アニメから考えるジェンダーと心～
 - ピアノ・エレクトーン部COLORS
 - 島根大学医ゼミサークル「おろびょん」
- 以上、20団体

*この他、任意団体7団体が活動しています。



キャンパスガイド(医学部)

島根大学は松江市と出雲市に広いキャンパスを持つ総合大学です。医学部は島根医科大学を前身とし、島根大学としては5番目の学部で、出雲キャンパスに教育の拠点を構えています。出雲キャンパスは600床のベッドを備える高度先進医療の医学部附属病院と、教育・研究中心の学部ゾーンに分かれ、機能的に配置された建物が緑の木々の間に建てられています。



1 学生アメニティスペース

講義棟1階には飲食可能な学生アメニティスペースがあり、勉強やリラックス、グループでの集まりなど多目的に利用できます。机やコンセントがあり、持参したパソコンを使用することもできます。



2 医学図書館

図書約14万冊、学術誌約2千6百誌を所蔵し、電子ジャーナルや、各種文献データベースなども提供しています。医学部の学生と教職員は、学生証等で認証を受けることで24時間入館できます。



3 医の庭

講義棟と実習棟を結ぶ全天候型の屋外パブリックスペースです。「講義」と「実習」が密接に関わり、上級生と下級生の縦のつながりが実感できる空間で、学生たちの憩いの場にもなっています。



4 医学部食堂

医学部生は授業や実習でとても忙しい! バランスの取れた食事をしっかりとらないといけない。そんな医学部生の食生活を応援する食堂です。豊富な定番メニューと毎月の企画フェアメニューから選んで楽しみながら食事することができます。



5 英語学習支援室「e-clinic」

英語学習用書籍、パソコン、メディア教材等様々な学習用のリソースが揃っています。専任の英語教員が利用者の学習支援や相談を行っているほか、様々な英語学習の場としても活用されています。



6 ラーニング・コモンズ

移動間仕切り壁が設けられ、1部屋又は2部屋で利用できるラーニング・コモンズは、臨床実習時の学生教育や学生の休息場所、また、研究交流の場所として利用されています。



学生生活支援

島根大学医学部では、学生一人ひとりに応じたきめ細やかな学生相談、修学支援等を実施しています。
経済的に困難な学生については、授業料の免除制度、各種奨学金制度等を整えています。

入学料・授業料・各種免除・融資制度

入学時に要する費用

入学料	282,000円(予定額)	授業料	半期267,900円 (年額)535,800円
その他	傷害保険料、後援会費、学友会費など(※編入学生は別途) 医学科177,000円程度(入学時)看護学科123,000円程度(入学時)		

(在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。)

授業料免除制度・高等教育の修学支援新制度(授業料減免)

- 高等教育の修学支援新制度による減免
対象:学部学生(留学生を除く) 概要:住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯を対象とし、日本学生支援機構の給付型奨学金とともに授業料の減免が受けられる制度です。
- 令和7年度からの多子世帯の学生等に対する大学等の授業料・入学金の無償化等
対象:扶養する子供が3人以上の世帯 概要:令和7年度から多子世帯の学生等については、所得制限なく、大学等の授業料・入学金を国が定める一定額まで無償とすることとしています。

島根大学授業料等奨学融資制度

本学は、山陰合同銀行と連携した「島根大学授業料等奨学融資制度」があります。学生本人が授業料・入学料の融資を受け、在学中は本人が支払うべき利息を奨学援助金として大学が支払う制度です。卒業後、元金、利息を返還することになります。

奨学金制度・保険・補償制度

奨学金制度

〔奨学金・高等教育の修学支援新制度(給付奨学金)〕

- 高等教育の修学支援新制度(給付奨学金)について
本学の学部生(留学生・大学院生を除く)として在籍の方は、(1)授業料等の減免(2)日本学生支援機構の給付奨学金の給付(原則返還が不要の奨学金)の2つの支援を受けることができます。支援区分により、授業料・入学金(新入生のみ)の減免額と給付奨学金の支給を受けることが出来ます。
※支援は4つの区分により免除額、奨学金支給額が4段階となります。※申請には収入・資産や学業成績等の要件を満たす必要があります。
※令和6年度より多子世帯への支援区分が拡大されました。

〔日本学生支援機構奨学金〕

学業成績、人物ともに優れた学生で、経済的理由により修学困難な方には、選考のうえ、奨学金が貸与されます。

令和7年度貸与月額

第一種奨学金(無利子)	自宅通学:月額20,000円、30,000円、45,000円から選択
	自宅通学以外:月額20,000円、30,000円、40,000円、51,000円から選択
第二種奨学金(有利子)(在学中は無利子)	2万円～12万円(1万円単位)で選択します。

〔医学生地域医療奨学金〕

卒業後、島根県内で勤務する意思のある医学生を対象とした奨学金です。所定の条件を満たすと返還が免除されます。
詳しくは島根県のホームページを参照ください。 <https://www.pref.shimane.lg.jp/medical/kenko/iryo/ishikakuhotaisaku/igakuseichiikiiryouyougakukin.html>

令和7年度貸与月額

入学金相当額(入学年のみ)	282,000円	月額	100,000円	授業料相当額(年額)	535,800円
---------------	----------	----	----------	------------	----------

〔その他の奨学金〕

日本学生支援機構以外の奨学金情報が検索できます。 https://www.jasso.go.jp/about/statistics/shogaku_dantaiseido/index.html

学生教育研究災害傷害保険/学研災付帯賠償責任保険

教育研究活動中及び通学中等に万一事故により、身体に傷害を被った場合あるいは他人に対する賠償責任が発生した場合の補償制度で、医学部学生は全員加入します。また、臨床(臨地)実習中の感染事故(針刺し等)や賠償責任にも24時間対応可能な保障内容となっている「学研災付帯学生生活総合保険」も併せて加入されることを推奨しています。

大学生活の支援

指導教員制度

学生生活全般について、指導や助言などを行うため、指導教員制度を設けています。修学上の問題はもとより、私生活についても気軽に相談に応じています。

健康管理(メンタルヘルス)

学生相談室では相談員(教員、カウンセラー)があらゆる面での相談に応じ、問題解決の糸口が見つかるようアドバイスし、時には出雲保健管理センター、担当指導教員、学務課とも連携し、自主的に解決できる道が開けるよう支援を行っています。

福利厚生

学生の福利厚生を図るため大学会館があり、この中には、出雲保健管理センター、食堂、売店、サークル施設などがあります。また、附属病院内のコンビニ、理容室、美容室、簡易郵便局、キャッシュコーナー、自動販売機なども利用できます。

住居・アルバイト

出雲には学生寮がありませんので、大学周辺の学生生活に適したアパートなどの情報提供などを行っています。また、アルバイトを希望する学生には、大学生協出雲店で、修学に支障のない程度のアルバイトを紹介しています。

入試情報

本学医学部においては多様な入学試験を実施し、多様な学生が入学し、共に学んでいます。
自分をしっかり表現できる入学試験を選んでチャレンジしてください。

医学科

一般選抜

〔前期日程(一般枠)〕

大学入学共通テスト、教科・科目に係る個別テスト(数学、英語)、面接の総得点を基準に合格者を決定します。

〔前期日程(県内定着枠)〕※

島根県の医療に貢献する強い意志のある学生を全国から求めるものです。大学入学共通テスト、教科・科目に係る個別テスト(数学、英語)、面接の総得点を基準に合格者を決定します。

※緊急医師確保対策枠学校推薦型選抜及び前期日程(県内定着枠)は、実施を含めて文部科学省と協議中です。
決定次第、本学ホームページ(入試情報)に公表します。

学校推薦型選抜

〔学校推薦型選抜Ⅱ〕

出身学校長の推薦を受けた者について、大学入学共通テスト、小論文成績、面接、調査書、学校長の推薦書、自己推薦書を総合評価して合格者を決定します。

〔地域枠学校推薦型選抜〕

生まれ育った島根県内のへき地医療に貢献しようとする強い意志のある学生を求めるものです。出願前に生まれ育った市町村の長等の面接を行います。詳しくは「学生募集要項」を参照ください。

〔緊急医師確保対策枠学校推薦型選抜〕※

島根県の医療に貢献しようとする強い意志のある学生を全国から求めるものです。出願前に島根県担当者の面接を行います。詳しくは「学生募集要項」を参照ください。

編入学

〔学士入学(2年次・3年次編入学)〕

医学以外の分野で学士の学位を取得した者で、専門分野で学んだ知識を医学に生かすことができる優秀な人材に対し、医学修得の道を開いています。医学教育、研究及び診療の将来を担い、地域社会の発展にも寄与できる医師の育成を目的としています。

特に、専門分野で学んだ知識を生かして将来研究者を志す方のために医学研究の基礎を学び、研究に参加できる支援体制も用意し、科学的探究心の涵養を図ります。また、島根県内の高等学校等を卒業し、あるいは高等学校等在学中に島根県内に在在していた者で、4年制大学を卒業した者のうち、将来、本学医学部附属病院を含め島根県下の医療機関で地域の医療を担おうとする熱意と使命感をもった者を対象に、地域枠入学制度を設け、地域医療を担う医師の育成を図ります。
学力試験、面接、出願書類などを総合評価して合格者を決定します。

看護学科

一般選抜

〔前期日程〕

大学入学共通テスト、小論文成績、面接の総得点を基準に合格者を決定します。

〔後期日程〕

大学入学共通テスト、面接の総得点を基準に合格者を決定します。

〔専門高校・総合学科卒業生〕

大学入学共通テスト、小論文成績、面接の総得点を基準に合格者を決定します。

学校推薦型選抜

〔学校推薦型選抜Ⅱ(一般枠)〕

出身学校長の推薦を受けた者について、大学入学共通テスト、小論文成績、面接の結果を総合して判定します。調査書等の出願書類は面接時の参考とします。

〔学校推薦型選抜Ⅱ(地域枠)〕

将来、県内の医療機関等に勤務して地域の医療を支える熱意のある学生を求めるものです。高校からの推薦が必要で、大学入学共通テスト、小論文成績、面接の結果を総合して判定します。調査書等の出願書類は面接時の参考とします。

令和9年度入試日程

選抜区分			出願期間	試験日	合格発表
医学科	学校推薦型選抜	学校推薦型選抜Ⅱ	2026.11.2(月)～6(金)	2026.12.5(土)	2026.11.13(金)[第1次合格発表] 2027.2.10(水)[最終発表]
		地域枠		2026.12.5(土)～6(日)	2027.2.10(水)
		緊急医師確保対策枠	未定	未定	未定
	一般選抜	前期日程[一般枠]	2027.1.25(月)～2.3(水)	2027.2.25(木)～26(金)	2027.3.6(土)
		前期日程[県内定着枠]	未定	未定	未定
	編入学	学士入学(2年次・3年次編入学) 一般枠、地域枠	2026.7.14(火)～17(金)	[第1次選抜] 2026.8.22(土)	[第1次合格発表] 2026.9.4(金)
				[第2次選抜] 2026.9.26(土)～27(日)	[最終発表] 2026.10.14(水)
看護学科	学校推薦型選抜	一般枠	2026.11.2(月)～6(金)	2026.12.5(土)	2027.2.10(水)
		地域枠			
	一般選抜	前期日程	2027.1.25(月)～2.3(水)	2027.2.25(木)～26(金)	2027.3.6(土)
		後期日程		2027.3.12(金)	2027.3.20(土)
		専門高校・総合学科卒業生選抜		2027.2.25(木)～26(金)	2027.3.6(土)

※緊急医師確保対策枠学校推薦型選抜及び前期日程(県内定着枠)は、実施を含めて文部科学省と協議中です。

決定次第、本学ホームページ(入試情報)に公表します。

※不測の事態等が生じた場合は、入試日程、実施方法等を変更することがあります。変更を行う場合は、本学ホームページ(入試情報)に公表します。

各種データブック

- 出身高校所在地別入学者数
- 国家試験結果
- 過去の志願者数・合格者数

■出身高校所在地別入学者数(令和8年4月入学)

学科	医学科		看護学科		計(人)
入学定員	102【10】		60		162【10】
収容定員	612【45】		240		852【45】
区分	男	女	男	女	計
北海道	1	0	0	0	1
東北	0	0	0	0	0
関東	9	11	0	0	20
中部	3	6	0	0	9
近畿	13	22	0	7	42
中国	10	15	2	52	79
四国	0	0	0	0	0
九州・沖縄	6	5	0	0	11
その他	0	1	0	0	1
計(人)	42	60	2	59	163
編入学	7	3			10

(注)入学定員、収容定員【】内は外数で編入学

■データで見る島根大学



実は**研究力のある**
国立大

週刊東洋経済(2018.2.10)より



大学の**地域貢献度**
ランキング

日経グローバル(2025.11.3)より

■過去の志願者数・合格者数

医学科

区 分			入試年度				
			R4	R5	R6	R7	R8
学校推薦型	推薦Ⅱ	志願者数	107	105	86	104	121
		合格者数	25	25	25	25	25
	地域枠	志願者数	21	11	7	10	11
		合格者数	9	9	2	7	3
	緊急医師確保対策枠	志願者数	24	14	14	11	24
		合格者数	8	4	6	5	6
一般	前期(一般枠)	志願者数	390	595	451	320	384
		合格者数	58	56	65	60	62
	前期(県内定着枠)	志願者数	38	54	36	24	46
		合格者数	4	8	6	7	6
	2年次編入	志願者数	53	35	54	70	69
		合格者数	5	9	8	6	6
学士	3年次編入	志願者数	50	45	48	37	38
		合格者数	6	6	6	5	5

(注)合格者数には、追加合格者数を含みます。

看護学科

区 分			入試年度				
			R4	R5	R6	R7	R8
学校推薦型	一般枠	志願者数	27	15	25	29	30
		合格者数	12	10	14	14	15
	地域枠	志願者数	4	12	5	2	4
		合格者数	3	5	1	1	3
	前期	志願者数	114	40	101	51	120
		合格者数	35	30	36	37	35
一般	後期	志願者数	208	76	186	105	57
		合格者数	11	12	13	11	10
	欠員補充第2次募集	志願者数		90			
		合格者数		7			
専門高校・総合学科卒業生入試		志願者数	6	1	4	0	2
		合格者数	2	1	1	0	2

(注)合格者数には、追加合格者数を含みます。

■令和8年度入試合格者成績情報

区 分	総得点				大学入学共通テスト				個別学力試験			
	配 点	最高点	最低点	平均点	配 点	最高点	最低点	平均点	配 点	最高点	最低点	平均点
医学科前期(一般枠)	1650.00	1442.45	1273.90	1331.57	930.00	809.45	669.40	745.76	720.00	656.00	508.00	585.81
看護学科 前期	890.00	669.00	530.80	561.03	730.00	553.70	415.30	451.41	160.00	137.30	80.30	109.61

(注)看護学科後期は公表しない。

■国家試験結果[過去5年分](新卒者)

医 師	第116回 (令和3年度)	第117回 (令和4年度)	第118回 (令和5年度)	第119回 (令和6年度)	第120回 (令和7年度)	(%)
島根大学	96.1	90.6	95.9	93.3	93.3	
全国平均	93.5	95.3	96.0	95.7	95.4	

保健師	第108回 (令和3年度)	第109回 (令和4年度)	第110回 (令和5年度)	第111回 (令和6年度)	第112回 (令和7年度)	(%)
島根大学	96.4	100	98.2	100	90.5	
全国平均	93.0	96.8	97.7	94.0	89.9	

看護師	第111回 (令和3年度)	第112回 (令和4年度)	第113回 (令和5年度)	第114回 (令和6年度)	第115回 (令和7年度)	(%)
島根大学	100	98.2	100	100	100	
全国平均	96.5	95.5	93.2	90.1	94.1	

※保健師教育課程は選択制です。(令和4年度以降)
※助産師教育課程は大学院医学系研究科にあります。

OPEN CAMPUS 2026 医学科・看護学科 オープンキャンパス2026

対面及びWEBで開催予定です

詳細は島根大学ホームページをご確認いただくか、島根大学医学部学務課入試担当までお問い合わせください。

TEL 0853-20-2087 FAX 0853-20-2079



■入試に関するお問い合わせ

島根大学医学部(出雲キャンパス)学務課 入試担当
〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

TEL 0853-20-2087 FAX 0853-20-2079
Mail:nyusi@med.shimane-u.ac.jp

島根大学 入試情報
<https://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/>



島根大学医学部ホームページ
<https://www.med.shimane-u.ac.jp/>

